

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	訓練中、ロープを持ち煙道内に進入後、ロープを踏み転倒し右手甲を打ちつけた。
3. 体験した事例の中心的要素	常日ごろ行なっている訓練であったため、進入する際の安全確認が緩慢であった。
4. 体験した事例の原因・理由	今回の事故に対する危険予知能力が不足していたため。 訓練に対する集中力が不足していたため。

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

.....

1. 発生日時	平成 20 年 4 月 14 日 午後 3 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：横坑での事故を想定した、煙道という訓練場。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	転倒
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [救助（大会に向けた訓練）]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：横坑救助訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[28]歳、 勤続年数[8]年、 現場経験年数[8] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員]
○当事者 B	年齢[28]歳、 勤続年数[6]年、 現場経験年数[6]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[31]歳、 勤続年数[13]年、 現場経験年数[10]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A、B、C	救助訓練のための設営（準備）開始。	
経過 2	〃	設営（準備）完了。昼食をとる。	
経過 3	〃	救助訓練開始。	
経過 4	〃	休憩（30 分）をとる。	
経過 5	〃	救助訓練再開。	
経過 6	〃	事故発生。	
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

- 1 日ごろから訓練時には危険要因が存在していることを認識し、安全、確実に行動すること。
- 2 基本訓練を繰り返し実施し、安全管理能力、危険予知能力を体得すること。
- 3 行動は、基本に忠実で、安全確認呼称は惰性に流されず確実に励行すること。
以上を徹底することとした。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

様式第2号

現 場 附 近 見 取 図 及 び 道 路 の 状 況									
見 取 図	場所： 屋外訓練場								
	←至 至 →								
	C 訓練塔 B 訓練塔 A 訓練塔 転倒位置 → 煙 道								
道 路 の 状 況	路 面	舗 装	非 舗 装			平 坦	こう配 上り、下り	凸 凹	
		乾 燥	ぬかるみ	湿 潤	積 雪	凍 結			
	交通の状況等	交 通 ひんぱん		交 通 閑 散		市 街 地		非 市 街 地	
		程 度							
	交 通 規 制	速度 km/h		警笛ならせ		一 時 停 止		その他 ()	
明暗見通し	昼 間	夜 間	街路灯	あり、なし		見とおし	良い、悪い		

- (注) 1. 被災現場の位置図及び写真は別紙とすること。
2. 被災当日の行動を矢印で示し、被災地点は×印を記入し、その後の予定は点線又は色分けをすること。
3. 道路の状況の欄は、該当する項目に○印を記入し、空欄と程度、速度の項目は該当事項を記入すること。